

2023年9月26日発行

アグリ筑西

2023年 10月号

収穫等で忙しい時期ですが、体調管理には十分に気をつけて作業しましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
筑西地域農業改良推進協議会 発行
Tel : 0296(24)9206
Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

抑制トマトの出荷が最盛期

筑西市、桜川市のトマトは、主に抑制栽培がおこなわれており、7月上旬に定植、8月20日から出荷が始まりました。現在、トマトの出荷最盛期を迎えています。抑制トマトは近年、栽培時期が猛暑にあたり、病害虫の発生も多いことから栽培が難しく、他産地では減少傾向にあります。しかし、この時期のトマトは年間で最も単価が高く、作りこなせば収益を確保できる品目です。

普及センターでは、JA北つくば東部とまと選果場部会青年部の皆さんとともに、穂木や台木の優良品種の選定試験を実施しています。

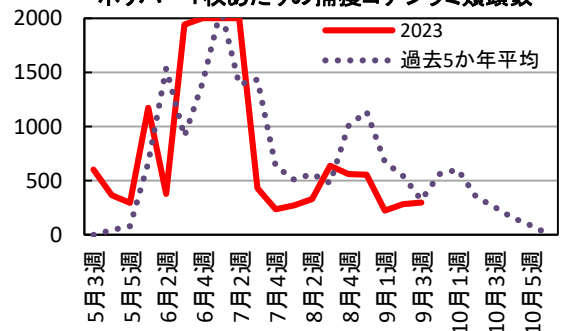


・病害虫の発生に注意

また、普及センターでは、青年部の皆さんとともに、抑制トマトで主に問題となっているトマト黄化葉巻病対策として、毎年、協和地区の3か所で黄化葉巻病媒介昆虫であるコナジラミ類の発生状況を調査しています。今年のコナジラミ類の発生は例年並みであり、黄化葉巻病が各地で発生しています。さらに、猛暑の影響により細菌病やオオタバコガなどのチョウ目害虫が多発しています。引き続き病害虫防除に心掛けてください。

コナジラミ類発生状況(十里地区)

ホリバー1枚あたりの捕獲コナジラミ類頭数



第3回農業学園「病害虫・農薬基礎講座」を開催！

8月29日に、農業学園第3回講座「病害虫・農薬安全使用講座」(広域講座)を開催し、就農して間もない農業者など20名が参加しました。講座では、病害虫の防除や、安定生産のための知識を習得してもらうために、病害虫の発生要因や対策、農薬の適正使用について学びました。学園生からは、「病害虫や農薬について広く理解できた」、「農薬の管理、使用記録の重要さがわかった」等の感想があり、活用性がある講座になりました。



講座の様子

～次回講座の予定～

講座名：農作業安全講座

日時：令和5年10月24日(火)
13:00~16:30

場所：ヤンマーアグリジャパン(株) 関東甲信越支社
(茨城県稲敷郡阿見町よしわら一丁目19番地1)

連絡先：県西農林事務所経営・普及部門
高橋・友部 TEL:0296-24-9214

ネギの病害虫防除について

※写真は「茨城県病害虫防除所のHP」より引用

○シロイチモジヨトウ

- [発生] 春から秋に発生する。
- [症状] 幼虫が葉の薄皮を残すように食害する。
- [特徴] 幼虫は、体長約3cmで体の側面にある白色～ピンク色の線のような模様がある。
- [対策] 幼虫の齢が進むほど薬剤の感受性は低下する。薬害抵抗性が発達しており、防除の際は農薬の選定に注意し、防除効果を確認する。



シロイチモジヨトウの幼虫（上）とシロイチモジヨトウによる葉の被害（下）→

○べと病

- [発生] 被害植物についたカビ（卵菌類）が原因で起こる病気。春先に気温が高く降雨が多い場合や、梅雨、秋雨で曇雨天が続くと多発しやすい。
- [症状] 葉身の一部がぼんやりと黄化し、表面にうっすらと灰色のカビが見える。症状が進むと、被害部は黄白～灰白色にしおれて枯れる。
- [対策] 発病初期の防除を徹底する。前作で多発した圃場では、発生前から予防散布する。異なる系統の薬剤をローテーションする防除体系を組む。



べと病による葉の被害→

○さび病

- [発生] 被害植物についたカビ（担子菌）が原因で起こる病気。春と秋の2回発生する。気温25度以下の高湿度が続くと発生しやすい。
- [症状] 葉や花梗にオレンジ色の小斑点ができる。症状が進むと、さび色の粉に覆われ、わら色に枯れこむ。
- [対策] 雨が多いときは発生を予想し予防散布する。異なる系統の薬剤をローテーションする防除体系を組む。



さび病による葉の被害→

病害虫発生予察情報

出典：「病害虫発生予報9月号」（茨城県病害虫防除所）
最新情報は茨城県病害虫防除所HPをご覧ください→



作物	病害虫名	発生量	発生地域	防除上注意すべき事項
大豆	チョウ目幼虫	多い	県下全域	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。 ・ハスモンヨトウでは、白変葉(若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉)の発生を防除の目安とする。 ・薬剤散布は、薬液が葉裏や莢にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。
サツマイモ	ナカジロシタバ	やや多い～多い	県下全域	<ul style="list-style-type: none"> ・若齢～中齢幼虫の時期（つる先、上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。 ・幼虫が生息する葉裏まで薬剤散布する。



ハスモンヨトウ（左：中齢幼虫 右：老齢幼虫）



ナカジロシタバ（左：中齢幼虫 右：初期被害葉）